

# 第 3 6 号

出典：丹羽療法 土佐清水病院院長 丹羽鞠負 著(抜粋)

プロトピック軟膏の発癌性について

全国の  
アトピー患者が信頼する  
これだけの理由

# 丹羽療法

土佐清水病院院長・医学博士  
丹羽 靱負  
に わ ゆ き え

15 万人の  
実績が証明!

丹羽療法

全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由

土佐清水病院院長・医学博士  
丹羽 靱負

リオン社



9784576041391



1920077013002

ISBN4-576-04139-8

C0077 ¥1300E

定価：本体1300円 + 税

発売 二見書房

全国のアトピー患者が  
信頼するこれだけの理由

# 丹羽療法

15万人の実績が証明!

リオン社

した。この実験結果は平成10年9月にジュネーブで開催された国際皮膚科学会の「32nd ISDR」(European Society for Dermatological Research)のPlenary Session総会口演に採用され、発表してまいりました。次いで、イギリスの国際皮膚科学会雑誌である「British Journal of Dermatology」や「Journal of European Academy of Dermato-Venereology」に投稿し、採用され出版されています。(Br.J.Dermatol.149: 960-967. 2003; J. E. A. D. V. in press. 2004)

これらの実験結果は、長期間軟膏塗布を続けなければならぬアトピー患者さんが、プロトピック軟膏を長期間使用した場合、発癌の危険性があることを警告しています。

さらに、それより重要かつ危険なことは、プロトピック軟膏を使用されているほとんどの医師や患者さんたちが、次の重大な、プロトピック軟膏についている「添付文書の注意書」を守ってお

軟膏を外用するように」と大々的にすすめてまわっています。

著者は昨年、プロトピック軟膏を外用している患者さん約300人にアンケートをとり、「お医者さんにどこに塗るよう指示されましたか」と尋ねますと、90パーセントの患者さんが「これを顔に塗るよう言われた」と答えました。

このような顔面などの露出部にプロトピック軟膏を塗り続けていると、フロンガスでオゾン層が破壊され、紫外線が強力になっていますから、「添付書、注意書」や私の実験結果からおわकारいように、多くのアトピー患者さんが、数年前には顔面に皮膚癌を発生することは必至です。

臓器移植患者は免疫抑制剤を使用しないと短期間で死亡しますが、アトピー患者はnon life-threatening、つまり生命に関わらない病気で

この病気にステロイド外用剤を塗っていても、副作用は皮膚萎縮だけですみますが、プロトピック

れないことです。

プロトピック軟膏には、「注意書、添付書」が3枚ついており、その2枚目の右側には、「紫外線照射とプロトピック軟膏を併用すると皮膚癌発生が早期に促進される」ので、紫外線のあたる部位に軟膏を塗布しないこと、そして、「(皮膚癌に弱い)外国人のアトピー患者では、すでにプロトピック軟膏を塗布して皮膚癌が発生した」という2つの注意事項が記載されています。

つまり、このプロトピック軟膏は、実験段階ですでに発癌性のあることを厚生労働省はわかっているが許可をしたということです。真にショックな話というほかはありません。ところが困ったことに、医師も患者さんもこの注意書を全然読んでいないのです。

製薬会社のMR(プロパー)は、それをいいことに(??)医師たちに対して「ステロイドを顔に外用すると副作用が強いので、特にプロトピック

軟膏の副作用は、発癌という生命を奪う、life-threateningだから恐ろしいのです。製薬会社の「巧妙さ」と、厚生労働省の無関心なことに驚きと憂慮に絶えないのは、この状態でもし皮膚癌が発生した場合、厚生労働省と製薬会社は、

一指示書にはきちんと、紫外線のあたるところに軟膏を外用すると発癌が促進されると書いてあるではないか。オゾン層が破壊され、紫外線が非常に強力になっているのは、今や常識であり、顔に塗って発癌したのは、塗布させた医師の責任だ」と言っつて、責任をとらないだろうと思われるところです。

それでいて製薬会社のプロパーには、「ステロイドが怖いので顔にプロトピックを塗るよう」と言わせているのです。

忙しい医師は、添付書の片隅に細かく書かれている指示書など読んではおられません。しかし、添付書に書いている注意を守っていないのだから、

その責任は、処方した医師がとらなければならなくなりません。

最近では、薬害に対する民間団体の監視機構もできてきて、厚生労働省も薬害にうるさくなってきています。40年前には白斑によく効く薬が数種類ありましたが、いずれも発癌の恐れがあるとい

って製造中止になりました。

また、2年前にはエステルローダーを含む180の化粧品会社が、色素沈着を取り除くコウジ酸の化粧品を製造販売していましたが、ネズミの実験で発癌が報告され、人間に使って癌が出ないという証明はないということで、製造中止の命令が下されました。

また、何十年も続く水虫（白癬）には、軟膏のみではあまり効果がなく、グリセオフルビンという抗生物質を内服させると見事に治癒します。ところがグリセオフルビンは肝臓の悪い人が内服すると肝臓が悪くなるそうで、このグリセオフルビ

義務付けないのでしょうか。

医師の皆さん、最近の紫外線は異常な程強くなっています。このままでは近い将来、ミドリ十字の何十倍何百倍の薬害事件になります。とりあえずは、添付書にも指示されている紫外線のある顔には絶対に塗布されないようにお願いします。

すでに昨年8月、大阪で16歳のアトピー患者の女性が、早く治りたい一心でプロトピックを75本買ってきて3年間塗り続けた結果、悪性リンパ腫という癌になっていきます（読売新聞の記事による）。

また、今年の3月、東京の北区で16歳の男性が、同様にアトピーにプロトピックを長期外用して悪性リンパ腫を発生したようです。2度あることは3度あるのです。発癌するという、これだけの基礎データが出ていられるにもかかわらず、命を奪われないアトピーの患者さんに、プロトピックを外

用するのは間違っていると思います。

を患者に投薬する医師は、薬袋に「内服すると肝臓が悪くなるかもしれない」という注意書を入れて投薬するように指示されました。

この命令が下されてから10年経ちますが、これを薬袋に入れて渡すとほとんどの患者さんは飲みません。現場の医師は非常に治療しにくくなっているのが現状です。

私は医師になって40年以上経ちますが、グリセオフルビンをすでに何千、何万人に服用してもらいましたが、未だに肝臓が悪くなった人はおりません。これだけ薬害に対する嚴重な注意を払っているのが現状です。

こうした状況であるにもかかわらず、理論上はもちろん、実際に発癌が認められている軟膏を、生命を奪われない何百万のアトピー患者になぜ許可するのでしょうか。またなぜ、投薬する医師に「紫外線のあたる顔へ塗ると発癌するので塗らないように」という注意書を、薬袋に入れることを

**Q** 極端な自然回帰はアトピー患者を救わないというのが丹羽先生のスタンスですか？

**A** そのとおりです。たしかに副作用の強い恐ろしい化学薬品が非常に安易に使われている嘆かわしい時代です。このことは、西洋医学の最先端で活躍されている科学者や、お医者さんたちに真剣に反省していただかなければならない問題です。その反動として起こった反公害、自然回帰運動（漢方の生薬を中心として）グループがかなりの影響力をもち始めました。

私も恐ろしい化学薬品には絶対反対です。私は、total killing（正常な細胞まで殺してしまう）の抗癌剤や、放射線療法、細胞障害の強力な化学薬品および、身体をメチャクチャにしてしまうステロイド内服には猛反対ですし、ステロイド内服の使用には格別の条件でもって生命と引きかえにだけ使用し、かつ、きついステロイド外用剤には絶対